放課後等デイサービス事業所における自己評価結果　(公表)

公表：令和2年3月25日

事業所名：フレンズポートふなおか

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			指導訓練室は66.4㎡あります。相談室と事務室も児童の利用時間中は活動場所として開放しています。また、児童の要望に応じて、外遊び(施設敷地内)も積極的に実施しています。 そういった環境の中で、必要なお子さまそれぞれがそれぞれカームダウンする場所（お気に入りの）をもっております。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			平日は１日、4～5名の職員を配置しています。今後も引き続き研修等の実施により、資質・能力の一層の向上に努めてまいります。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		スロープの設置、段差のない設計、多目的トイレを設置しております。またそれぞれのお子さまの視点を優先した環境整備を今後も継続してまいります。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			日々の支援内容・業務に関しては、幅広く意見を集め、支援会議等の場も活用しながら、より良い支援の在り方に向かってスタッフ全員で取り組んでいます。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			昨年度同様、今年度についても実施します。その結果を令和２年3月25日にＨＰにて公表します。今後、いただいたご意見を業務改善につなげていきます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			令和元年3月25日にＨＰに公開します。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	現在、第三者機関による外部評価は実施しておりません。今後の実施については、新潟県中東福祉事務組合内で検討してまいります。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			新潟県中東福祉事務組合としての研修のほかに、事業所内でも研修を定期的に実施しています。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			事業所独自のアセスメント表に基づき、保護者様への聞き取りと児童の行動観察を行った上で、計画を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	現状、標準化されたアセスメントツールは使用しておりません。より個々の特性や能力にあった支援を展開していけるよう、今後は標準化されたアセスメントツールの導入を検討しているところです。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			支援スタッフの意見も取り入れながら、児童発達支援管理責任者と保育士とでプログラムを計画しています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			フリーな環境下でそれぞれの好きな活動、やりたい活動を児童が自分で選択することを基本的なプログラムとしています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		それぞれの開所日に応じて、支援の展開、プログラムの工夫は行っていますが、課題の設定よりも「児童がいかに楽しめるか」ということに重点を置いています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			全体での活動もプログラムとして取り入れながら、個別活動に重点をおいた計画を作成しています。
	⑮	支援開始前には必ず職員間で打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			当日の利用児童や職員の動向(会議出席等含め)を確認しています。行事などが予定されている際は、役割分担や諸々の留意事項についてもスタッフ全員が確認してから業務にあたっています。

適切な支援の提供	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等共有しているか		○		その日行われた支援の中で、気づいた点や確認すべき点があればその日のうち共有するようにしています。支援終了後に関わらず、その場もしくは後日思い出した場合でも、いつでも話し合いをできる雰囲気づくりに努めています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			利用時間や支援の提供・内容についてなど、利用実績に関わることについて正しく記録を残しています。また個別ではヒヤリハット・ニコリホットも含めた支援に繋がる記録づくりを意識して取り組んでおり、過去と現在のお子さま各々の様子を確認することなど、支援の方向性への判断などに役立っています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期的にモニタリングを実施していますが、定期にこだわらず児童の状態や発達段階に応じて、随時計画の見直しをはかっていく必要が今後はあると考えています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	○			「自立支援と日常生活の充実のための活動」と「余暇の提供」に重点をおき支援を展開しています。
関係者や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児童発達支援管理責任者が毎回参加しています。
	㉑	学校との情報共通(年間計画・行事予定等のの交換・子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校との定期的な連絡会(基本的には月1回)の開催や日々の交流の中で、随時必要な情報の共有に努めています。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		現在は、医療的ケアの必要な児童の受け入れが可能な体制(看護師の配置)になく、受け入れは実施しておりません。しかし、今年度は『五泉市　医療的ケアを必要とする児童の支援に関する情報交換会』に参加するなど、地域課題の解決にむけて障害児通所支援事業所として取り組んでいます。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			就学前に保育所等での様子を見学させていただくとともに、児童の理解を深めるための情報共有の機会も設け相互理解に努めています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			事業所で実施していた支援の内容と経過、ご本人への配慮事項など引き継ぎを行っています。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		これまでは専門機関と事業所とで個別ケースに関する連携は実施していませんが、専門機関の開催する研修には参加しています。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	これまでは実施できていません。保護者等からの意見も参考に、今後、そのような機会を提供していけるかどうかも視野に関係機関との連携に努めてまいります。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○			専門部会の委員として五泉市と阿賀町の協議会に参加しています。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			共通理解のもと児童に関わっていけるよう、事業所での様子ご家庭での様子の共有に努めています。
	㉙	保護者の対応能力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	これまでのところ、ペアレント・トレーニング等の専門的な支援は実施していません。ご家庭での対応に苦慮されている保護者様へは、標準的な対応方法をお伝えした上で、より個別的な対応について一緒に考えています。
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			利用契約の際に、丁寧な説明を行うよう心がけています。

保護者への説明責任	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○		相談を受けた際には、事業所での助言はもちろんのこと、担当の相談支援専門員とも連携し対応しています。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	現在、そのような支援は実施しておりません。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情対応の体制は整備しております。また、体制については利用契約の際に、児童や保護者様に周知しています。
	㉞	定期的に会報当を発行し、活動概況や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、活動の様子や行事予定等を記載した「おたより」を発行しています。
	㉟	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○			文書については新潟県中東福祉事務組合の規程に順じて取り扱い、保管を行っています。また、職員のプライベートな時間、場所においても、業務上知りえた情報について口外することのないよう指導を行っています。
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			意思疎通、情報伝達の配慮として、視覚的な情報の提示、絵カードや50音ボード、ハンドサインなど非言語でのコミュニケーションの保証、簡潔で具体的な言葉かけなど実施しております。またPECSをはじめ様々なAAC（拡大・代替コミュニケーション）について関心を寄せて支援に取り入れられるよう取り組んでおります。
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			事業所単位ではそのような行事は実施していませんが、隣接するふなおか学園・更生園では、盆踊り大会やさいの神等の行事を開催し、地域との交流を図っています。
非常時等の対応	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか		○		各種マニュアルを整備し、職員への周知は行っています。しかし、すべてのマニュアルを保護者へは周知することまではしていません。
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			毎月、各種非常災害を想定した避難訓練を実施しています。また、避難だけでなく、訓練用の水消火器を使用した初期消火の訓練も定期的に実施しています。
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止に関する研修を開催するとともに、適切な支援方法について学ぶ研修も開催し、意識と支援スキルの向上に努めています。
	㊶	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		これまで身体拘束を実施したことはありません。なお身体拘束を行う場合については、児童や保護者、主治医の了解を得た上で組織的に決定し、計画にも記載をします。
	㊷	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		現在、該当する児童の利用はありませんが、今後利用を受け入れる場合には、必ず主治医との連絡体制は整える必要があると考えています。
	㊸	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか			○	これまでヒヤリハット事例集は作成しておりません。今後はヒヤリハットを収集し、その検証をすることで、一層の事故防止に努めていきたいと考えています。